

## 30-1043 W107-6

コミュニケーションスキル習得を目指した対話演習の試み

○谷口 律子<sup>1</sup>, 小野 浩重<sup>1</sup>, 犬飼 容子<sup>1</sup>, 每熊 隆誉<sup>1</sup>, 加地 弘明<sup>1</sup>, 牧野 和隆<sup>1</sup>, 手嶋 大輔<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>就実大薬)

【目的】平成 18 年度より薬学教育が 6 年制に変更されるに伴い、実務実習をはじめとする医療薬学教育の充実が求められている。本学では臨床薬学教育の一環として、対話能力を習得することを目的に、1 年生・2 年生に対して対話演習を行っている。今回、2 年生後期に患者と薬剤師の 1 対 1 の対話を想定した対話演習を試みたので報告する。

【方法】対話演習の題材として、医薬品に関して Q&A 方式で記載されている書籍「根拠がわかる医薬品 Q&A (南江堂)」を用いた。1 回の演習 (90 分) で 2-3 個の Q&A をテーマとして演習を行い、以下の方法を繰り返し行った。演習の最後に次回演習のテーマ (Q&A) を配布し、1 週間後の次回演習時までにその内容を理解させた。演習時には、まず患者役と薬剤師役のペアを発表し、そのペアで対話練習を行った。その後、教員が指名したペアが全学生 (1 グループ 20 名) の前で患者役・薬剤師役のロールプレイを行い、1 ペアで 3 分以上対話を続けることを義務付けた。各ペアの対話終了毎に、聞き手の学生に良い点、悪い点などの意見を発表させた。

【結果および考察】聞き手の意見として学生から出された良い点、悪い点を念頭に置きながら、演習を重ねていくことで、学生が少しずつ対話方法の基本を習得していくのがうかがえた。コミュニケーションスキルの基本的事項を把握しても、それをロールプレイで実行できる学生と、実行できない学生がいること等、いくつか問題はあがるが、今回の対話演習を行うことで、模擬薬局実習 (実務実習事前教育) や病院・保険薬局などにおける実務実習に必要な対話能力の基本的事項を習得できると考える。